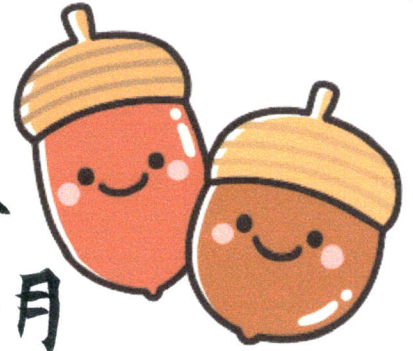




徳成寺

寺もかわり版

第191号 2022年11月



いつもありがとうございます。住職の大山です。

先日、何気なくNHK こころの時代「問われる宗教と“カルト”」

を見ていました。批評家でありカトリック信者の若松英輔さんが

「マザーテレサが死にゆく人々の手を握って活動する姿を、ある人が

見て『もっと行政に訴えかけるべきだ』と批判しました。するとマザーテレサ

は『私には、行政が与えることのできない愛が問題なのです』と答えた」と紹介

して下さいました。旧統一教会などを巡って、宗教の在り方が厳しく問われる時代

になり、若松英輔さんが宗教本来の在り方を問題提起して下さいましたワンシーンでした。

つまり様々な行政サービスの一つではなく、宗教でしか成し得ないものがあるはずだと。

宗教をめぐる混乱のただ中であって、宗教本来の機能に立ち帰れと勧めておられました。

私も、若松英輔氏に全く同感致します。キリスト教徒が愛ならば、仏教徒には慈悲が

課題になります。仏教徒にしかできないことを中心に据えて参りたいと思います。

発行責任者
住職
大山健児
坊主
大山ひろめ



大山超世の耳を澄ませば

お世話になっています、副住職です。先月に続き今月は高知県の土佐別院で法話実習がありました。11月に帰敬式があるそうなので、「人間の欲から離れて仏様の教えに基づいて生活しなさいという願いが帰敬式にはかけられている」とお話をしました。すると、聴聞されていた門徒さんから「欲がなかったら人間の生きる活力が無くなるんじゃないですか？」と尋ねられました。その言葉に対して仲間のお坊さんが「調子がいい時はそれで生きていけるのですが、自分の思い通りならなくなった時、他と比べてしまって不幸であると思うようになるから、別の事を拠り所にしましょうって話です」と説明してくれて何とか助かりました。写真はひろめ市場で食べた高知名物カイツオのたたきと餃子です。美味しい物を食べた後に「欲が無かったら～」と言われるとそりゃそうだと言わなければならないですね。

